

処暑の候 宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部会員に於かれましては、益々ご清福の段、大慶至極に存じ上げます。

皆様には日頃より当支部運営に際して特段のご高配を賜り、深甚なる敬意を表すと共に、倍旧のご支援を伏してお願ひ申し上げねばなりません。

さて今夏二年ぶりに二泊三日の九重連山単独縦走を楽しんだ際、最終日稲星山頂で強風とガスに巻かれて道を失い、危うく遭難？しかけました。(笑)

そんな場合は元の場所に引き返すのが山の鉄則であり、稲星山頂に戻って、冷静に地図とコンパスを開き現在地を確認したところ、ガスの切れ間に縦走路を発見して事なきを得ましたので、山頂の祠に鎮座まします不動明王の石仏に向かい本当に至極自然に手を合わせ、心より神のご加護に感謝した次第です。

そして八月十五日、六十六回目の終戦記念日に護国神社に参拝した折、祖国の平和と繁栄を信じ散華された英霊の御霊に哀悼の誠を捧げ乍ら、デジャブの感覚に激しく襲われたのは、二日前の不動明王のご託宣に違いありません。

高村光太郎は、『綸言(りんげん) 一たび出でて一億号泣す。

昭和二十年八月十五日正午、われ岩手花巻町の鎮守島谷崎神社社務所の畳に両手をつきて、天上はるかに流れきたる玉音(ぎょくいん)の低きとどろきに五體(ごたい)をうたる。五體わななきてとどめあへず。

玉音ひびき終りて又音なし。この時無声の号泣国土に起り、普天の一億ひとしく宸極に向ってひれ伏せるを知る。微臣恐惶ほとんど失語す。

ただ眼を凝らしてこの事実 directly し、苟も寸毫の曖昧模糊をゆるさざらん。鋼鉄の武器を失へる時、精神の武器おのづから強からんとす。

真と美と到らざるなき我等が未来の文化こそ、必ずこの号泣を母体としてその形相を孕(はら)まん。(昭和二十年八月十六日午前花巻にて)』と詠みました。

玉音放送で「日本の敗北で戦争が終わった」という事を知り、衝撃を受けた当時の人達の状況や様子がよく伝わりますが、最近では大東亜戦争の意義どころか、日本が曾て米國と戦ったという歴史すら知らない子供達が増えたと聞き、そんな子供達に連綿と続く父祖の世代の体験や歴史を正しく継承させながら、世代間に歴史の断絶があってはならぬものと考えます。

相も変わらず靖国神社参拝の事で政界は大騒ぎですが、賢明な国民達は今の日本に何が必要で、誰が重要なのかは既に見抜いているのかも知れません。

八月二十八日の富士総合火力演習を四年ぶりに参観して来ますので、九月号にてその様子をお知らせする予定につき、楽しみにお待ちしております。

来る十一月十二日「日本会議宮崎県央支部設立大会」の講師で桜林美佐氏が来宮されますので、何卒会員諸兄にはご予定の程お願ひ申し上げます。

平成二十三年九月一日

宮崎県防衛協会

青年部会

宮崎支部長

小倉和彦